

1 題材 Unit 8 はじめてのカナダ旅行

2 目標

- 自分の思いや考えを、身体表現も交えながら積極的に相手に伝えようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 自分の思いや考えを Where, Whose, 人称代名詞等の表現を用いながら、適切に相手に伝えることができる。
(表現の能力)
- Where, Whose, 人称代名詞等の表現を用いて表された対話文の内容を理解することができる。
(理解の能力)
- 学習してきた文法事項の使用場面を理解して、適切に運用することができる。(言語や文化についての知識・理解)

3 指導に当たって

(1) 生徒の実態 (生徒数32名) 意識・実態調査より (10月5日調べ)

質問内容	人
・Where is your ~?を用いて身の回りの物の場所を問う質問に、口頭で答えることができる。 (中学校では未習)	17人
・Whose ~?を用いて身の回りの物の所有者を問う質問に、口頭で答えることができる。 (中学校では未習)	25人
・英語を話すことは好きですか。(好きと答えた割合)	17人
・英語で自分の思っていることや考えを書けるようになりたいと思いますか。(思うと答えた割合)	31人
・スキットは好きですか。(好きと答えた割合)	23人

本学級の生徒は、英語学習に大変意欲的に取り組み、特に「聞く・話す」言語活動を好んでいる。過日実施した意識・実態調査では、中学校では未習の"Whose ~?"という質問に、過半数の生徒が答えることができた。また、"Where is your ~?"には過半数の生徒しか答えられなかったが、"Where are you from?"に対しては大部分の生徒が答えることができた。この調査結果から、生徒は小学校の英会話学習で多くの英語表現をすでに身に付けていることが分かる。ただ、場面設定された中で繰り返し練習を重ね、パターンとして身に付けたと思われる。これからの学習では言語事項についても理解させるとともに、さらに多くの表現に触れる機会を増やし、英語で話す活動を増やすとともに、生徒の思いである書く活動も取り入れながら表現力の向上を図っていききたい。

(2) 題材について

本題材は、カナダ旅行に出かける当日のマイクたち4人の家や空港での対話を通して、場所をたずねる Where や物の持ち主をたずねる Whose, そして人称代名詞を学習する。既習の What, Who, Which に続いての疑問詞の学習である。小学校でも学習してきた疑問詞であるだけに、より実践的な活動や自己表現の場面を加えることを通して生徒達にとって興味のある展開となるようにする。また、「読んだり」「話したり」する活動だけでなく、生徒の思いである「書く」活動も取り入れ、多様な言語活動を計画し、楽しく書く力も身に付けられるようにしたい。

(3) 指導観

Where, Whose, 人称代名詞等の表現を用いて、相手に分かりやすく、場面にあった適切な表現を自分自身の力で考える機会を与えることは大切である。また、自分が身に付けている表現で、自分の思いや考えを表現できたり、スキットで実演した内容が理解できたりという達成感を英語学習で味わわせたいと考え、スキット活動を取り入れることにした。生徒はスキット活動に取り組むことで、与えられた条件をもとに場面に合った英語を書いて表現したり、それらを身体を使って表現したりする。スキットを自由に表現することで、級友に受け入れてもらえるという信頼感や安心感が生まれ、人間関係づくりにもつながっていく。モデルとなる対話文を繰り返し練習し、それを用いてAETでも英語で話すことで、伝わっているという実感を味わわせることが確かな習得につながる。さらに、それらのモデル対話文の一部を変化させ、作成したスキットを演じたり、オリジナルの文を加えたりすることで、自己表現することができるようになる。

このような活動を通して、自己表現力を身に付け、さらに、そのための新しい表現を知りたい、語彙力を増やしたいというような、英語学習へのさらなる意欲づけも図っていききたい。

4 学習計画及び評価計画

時	主な学習活動	評価の観点		
		関心・意欲・態度	表現	理解
1	Where is my (your)~? の用法を理解し、さらに on や by 等の前置詞を用いて、物のある場所を具体的に表す練習をする。		Where is ~?を用いて、場所をたずねたり、on や by 等の前置詞を用いて、その場所を説明したりできる。	Where is ~?の表現が運用できたり、物の場所に応じて、前置詞の使い分けができる。
2	Whose~?を理解し、様々な物を用いて、それが誰のものなのか当てるような言語活動をする。		Whose~?で持ち主を尋ねたり、mine 等の所有格や人の名前に's を付けることで、それが誰のものであるのか伝えることができる。	Whose~?を用いる場面を理解して運用できたり、所有格を適切に用いることができる。
3	いろいろな人物が描かれたワークシートを使って、その人についてのインタビュー活動をする。人称代名詞の練習をする。本文全体の音読練習をする。	たくさんの人と積極的にインタビューをしようとしている。		人称代名詞を適切に用いて、質問したり、答えたりすることができる。
				本文の内容を聞

4	る。 マイクの家での様子や仲間とのバス停、空港での様子を読み取る。			いたり読んだりして、マイクの家やバス停、空港での様子を理解することができる。
⑤ 本時	モデル対話文の内容を理解し、スキットをつくる。		言語材料を適切に用いて、自分の思いや考えを伝えることができる。	
6	スキットの発表をする。	身体表現を用いながら、作成したスキットを実演しようとする。	相手に分かりやすく、スキットの内容を演じることができる。	スキットで演じられている内容を理解することができる。

5 本時の指導について

(1) 目標

- モデル対話文を参考にしながら、言語材料を適切に用いて、自分の思いや考えを伝えることができる。
(表現の能力)

(2) 準備・資料

モデル対話文 (掲示用), スキットのワークシート, 辞書, ピクチャーカード

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点及び評価	
	JTE	AET
1 英語であいさつをする。	○ Hello, everyone. How are you? 等のあいさつから始まり, What day is it today? や What time is it? や What ~? 等のように今まで学習した表現も用いて尋ねながら, 英語を学習する雰囲気を高められるようにする。	
2 本時の学習課題を知る。	○ 本時の学習課題を知らせ, 1 時間の授業に目標をもって取り組めるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">オリジナルのスキットを作ろう</div>	○ 初めに JTE と AET でデモンストレーションをすることで, どんな場面の対話で, どのようにやるのかを捉えやすいようにする。	
3 モデル対話を練習する。	○ 身体表現を用いて対話をする一方で, より自然な対話となるようにするとともに, 身体表現をすることの大切さを生徒に気付かせるようにする。	
(1) 対話文の練習をする。	○ 一斉で対話文の練習をする際は, 机間指導をしながら, 発音の仕方が分からない生徒を個別に支援する。	
①一斉で対話文の練習をする。	○ 対話文を読み, それを一斉でリピートさせる。	
②ペアで対話文の練習をする。	○ ペアで対話文の練習をする際は, 主に窓側～中央の列の机間指導をする。	
その際, 机の向きを列ごとに対面にして, 大きな3つの列をつくり, それぞれの列ごとに対面した人との対話が終わるごとに席をスライドし, 多くの人と対話をする。	○ ペアで対話文の練習をする際は, 主に中央～廊下側の列の机間指導をする。	
Part 1	○ 机間指導をしながら, 話す速さや音量, アイコンタクトに気を付けて対話するように助言する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> < In the classroom > A: Do you have any plans on Sunday? B: No, I don't. A: Let's go to Kasamatsu park to watch the Mito Hollyhock's soccer game. B: That's good. All right. A: Here you are. This is the ticket. B: Thank you. See you then. </div>	○ 時間を決めて練習させ, 列ごとに, その時間内で何人と対話できたのかを競わせることで, より意欲的に取り組むことができるようにする。	
Part 2	○ Part 1 から Part 3 までの対話文を繰り返すことにより, 対話がより実際のものに近づくようにさせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> < Kasamatsu Park > A: Do you have the ticket? B: Oh, no! I don't have it. Where's my ticket? A: That's a ticket. Whose ticket is that? (To another person) Excuse me. Is this your ticket? C: No, it's not. B: Oh, it's mine. </div>	○ 対話の内容が理解しにくい場合は, 準備しておいたピクチャーカードを用いて, 場面を想像しながら対話ができるようにする。	
Part 3	○ 生徒の実演で, よくできていたところを見付け, 賞賛することで, 適切な話し方や表現の仕方に気付かせるようにする。	
(2) AET と対話文の実演をする。		

<p>4 オリジナルの対話文を作る。</p>	<p>○モデル対話文の一部分を変えて表現したり、Part 4 に当たる対話文をペアで考えて、会話を成立させるようにする。</p> <p>○学習した表現や英単語を用いながら表現するように助言する。</p>
<p>5 まとめをする。</p>	<div data-bbox="730 291 1428 392" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《評価》 言語材料を適切に用いながら、自分の思いや考えを表現することができる。 (ワークシート・発表)</p> </div> <p>○難しい表現を用いたり、英文をうまくまとめられない生徒には、簡単な表現に言い換えたり、使えそうな単語を知らせ、聞き手に分かりやすく表現することができるように支援する。</p> <p>○次時は、本時で作ったスキットの発表をすることを伝え、ワークシートを見ないでできるように、身体表現も付けられるように助言する。</p> <p>○ワークシートや掲示してある対話文を見ることで、本時で学習した表現を振り返る機会となるようにする。また、時間内に対話文を作り終えたペアがいた場合は発表させ、それを賞賛することで、次時の学習への意欲をもたせるようにする。</p>